

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	17-文学-7
-----------------	---------

平成17年度配分 研究成果の概要

研究名	大学における新しいイタリア語・イタリア文化の教育の研究				
配分を受けた特別研究費	文化政策学部長特別研究費				630千円
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の場合の分担
	文化政策	国際文化	教授	高田 和文	
共同研究者					
発表の方法 (予定で可)	1 紀要 静岡文化芸術大学紀要		号数	第 6 号 (平成18年3月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日 (発表予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法: イタリア人ネイティウ講師による課外授業、イタリア文化に関するレクチャー、イタリア語字幕付 DVD 教材製作		発表日 (発表予定日)	平成 年 月 日	

注: 配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

大学における新しいイタリア語及びイタリア文化の教育のあり方を研究し、本学におけるイタリア語教育のよりいっそうの充実を図る。具体的には以下の活動を行なう。

- 1) 本学学生を対象にしたイタリア人ネイティブ講師による課外授業
- 2) イタリア文化に関するレクチャー
- 3) 新しいイタリア語教材の導入と教育メソッドの研究
- 4) イタリアの舞台芸術を学ぶためのビデオ・DVD教材の製作

(研究の実施方法等)

1) イタリア人講師による課外授業

本学でイタリア語を履修している学生を対象に、イタリア語の課外授業を行なった。期日は平成18年2月15日(水)、2月17日(金)、13:00~16:30、両日とも学生約15名が参加。講師はマルチェッラ・モルガンティ氏、矢島カテリーナ氏。授業終了後、イタリア人講師とともに歓談の機会を設けた。

2) イタリア文化に関するレクチャー

本学でイタリア語・イタリア文化を学ぶ学生を対象に、イタリア人によるレクチャーを行なった。期日は平成18年1月13日(金)、13:00~17:00。講師はローマ大学講師・慶応大学訪問研究員のクリスティーナ・バネッラ氏。内容はローマの都市と生活について。レクチャーは簡単なイタリア語で行ない、必要に応じて通訳をした。

3) 新しい教材の導入と教育メソッドの研究

イタリアで市販されている新しいイタリア語教材を研究室および図書館に配備。これらのテキスト・資料を研究して、新しいイタリア語教育の方法について研究した。また、平成14年度以来続けてきた日本の大学におけるイタリア語学習者の実態に関する調査結果をまとめ、静岡文化芸術大学紀要第6号に論文として発表した(「大学におけるイタリア語教育の現状と第二外国語学習の意義について」)。さらに、これをイタリア大使館など関係機関に配布した。

4) イタリアの舞台芸術を学ぶためのビデオ・DVD資料の製作

イタリアで市販されている舞台公演のビデオよりダイジェスト版を作成し、これに日本語字幕を付けたDVD、ビデオ教材を製作した。今年度は、ゴルドーニ作、ストレーレル演出の「二人の主人を一度に持つと」(約60分)を製作した。

(得られた成果等)

- 1) イタリア人ネイティブ講師による課外授業やイタリア人によるイタリア文化に関するレクチャーによって、本学学生のイタリア語能力を向上させ、イタリア語・イタリア文化への関心をさらに高めることができた。
- 2) 日本の大学におけるイタリア語学習の現状についての調査報告を紀要論文として発表し、これをイタリア大使館など関係機関、関係者に配布することによって、イタリア語教育における本学の存在をアピールすることができた。
- 3) 本学におけるイタリア文化に関わる授業用教材、補助教材を整備・充実させることができた。特に字幕付きの舞台公演ビデオ・DVDは非常に貴重なものであり、今後学生にとってイタリアの舞台芸術を学ぶための効果的な教材になるものと思われる。